

## 音が「意味」するものとは 3

## 『昭和バカ一代』背中で自らの人生を見せて若者の「馬鹿な壁」となる

文 光吉俊二

text by Shunji Mitsuoshi

最

近、ふと、昭和の「バカ一代」の時代がなぜ凄かったのかと考えて、「もしかしたらみんなバカだったから」と思うようになりました。

最初から百点を求められ、完成度を要求される最近の日本社会は、生まれたときは百点だが、生きて何かする度に「責任」として減点されていく減点社会であるようだ。

その結果、処世術として「何もしない」「言わない」という知恵が出来てくる。そのエキスパートが集まる最高学府に來た海外からの留学生が「発言しない」「責任をとらない」日本の若者に唾然とします。

まさに想定外は当たり前、想定できないくらいに心が劣化している。その結果が今の日本の衰退であると感じるようになりました。

話は変わりますが、いつも、どの世界でも一番弱い者の涙で利益を得る人たちがいます。私はそういう人たちを見ると無性に闘志が湧き、許せなくなります。

子供の頃からとても困った性格ですが、これも今では見事に病名をつけられるでしょう。

そして、私のような子供たちが挫折し、引きこもりになる社会が現実にあります。

そうした子供たちに必要なものは何か。

それは薬ではなく、「君は間違っていない」という一言だと思っています。

何にでも病名をつけて、小学生や幼児まで薬漬けにするようなマーケティングをする人々を実に情けなく思うのですが、私は間違っているのでしょうか。

やはり病名を付けて治療しなければならぬのでしょうか。

昔なら「うちの子は困った奴だが、間違っちゃいない」という評価で済んだのではないのでしょうか。

また、なんでもかんでも明るくさせることが正しいとする風潮があります。私は「違うな。どんなストレスにも心が折れないように耐性を鍛えること」だと考えます。

それは子供たちに武道を教えるとき、しばしば感じます。

確かに歪な平等主義やゆとり教育が、日本を蝕み、子供たちの成長を歪めている。これに反論はしません。しかし、あきらめてはいけません。大人は背中で自らの人生をみせるのが、日本の古來からの「バカ一代」の伝統芸です。

私はバカを愛する心のゆとりを持つ「馬鹿な壁」になろうと心に決めました。

## Profile

日本の情報工学者であり彫刻家。北海道札幌市出身。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業。徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了、現在、博士(工学)。元スタンフォード大学バイオロボティクス研究所 Visiting Scientist (客員科学者)。現在、東京大学非常勤講師、株式会社AGI代表取締役である。専門は、ST (Sensibility Technology) 感性制御技術・VER 音声感情認識技術、音声脳神経分析技術。

